

福祉との連携による家庭教育支援 ～課題解決の手段を模索する中で～



令和4年2月4日

泉大津市教育委員会

泉大津市の基本情報（令和4年1月現在）

面積：約13km²

東西：約5.4km

南北：約5.5km

人口：73,767人

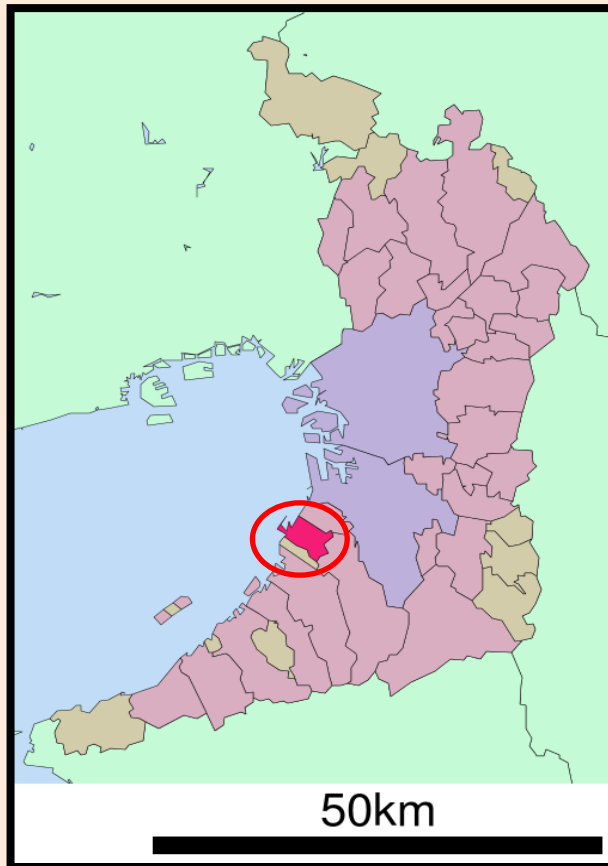
幼稚園：4園

認定こども園：3園

保育所：3所

小学校：8校

中学校：3校



バーベキュー施設



小松公園（仮）



羊精 おづみん



泉穴師神社



新図書館シープラ

泉大津市において家庭教育支援に取り組んだ背景

課題

保護者が子育てに悩みや不安を抱えながらも周りに相談できない（地域での孤立化）

保護者が日々の生活に追われ、余裕をもって子育てに向き合えない

保護者が学校（教職員）との良好な関係をうまく作ることができない

慣れない土地での子育て

核家族化

地域関係の希薄化

DV,虐待

離婚

ひとり親家庭

仕事掛け持ち

離/転職

貧困

コミュニケーションに課題

シャットアウト

高圧的な態度

視点

“困った保護者”

“**困**っている保護者”

なのかもしれない

目標

保護者を支援する
（エンパワメントする）

泉大津市における家庭教育支援の取組み

家庭教育支援チーム



①家庭訪問型



↓ 組み合わせ ↑

②小学校配置型



小・中学校に子どもがいる
保護者を対象

【家庭訪問型実績】

H29年度 101回訪問

H30年度 142回訪問

【小学校配置型実績】

H29年度 197回配置

H30年度 240回配置

保護者のエンパワメント

保護者が子育てに自信を持てるようになる
子どものことを考える余裕が生まれる

保護者の気持ちの変化

保護者の行動の変化

学校（先生）との関係が良好になる
子どもへの声かけも温厚になる

子どもが落ち着いて学校生活を送れるようになる
子どもの登校渋り等が改善される

子どもの行動の変化

教育と福祉のさらなる連携

課題意識

①就学前の保護者にも課題を抱えている人がいるはず

就学前の子をもつ保護者をどのように見つければいいのか



②サポーターを保護者にいかにつなぐか

保護者からの信頼関係がない学校がサポーターを紹介しても、つなげること自体がとても困難

校種が進むにつれて、保護者との気持ちの距離感がより広がってしまうため、より困難になる



解決方法

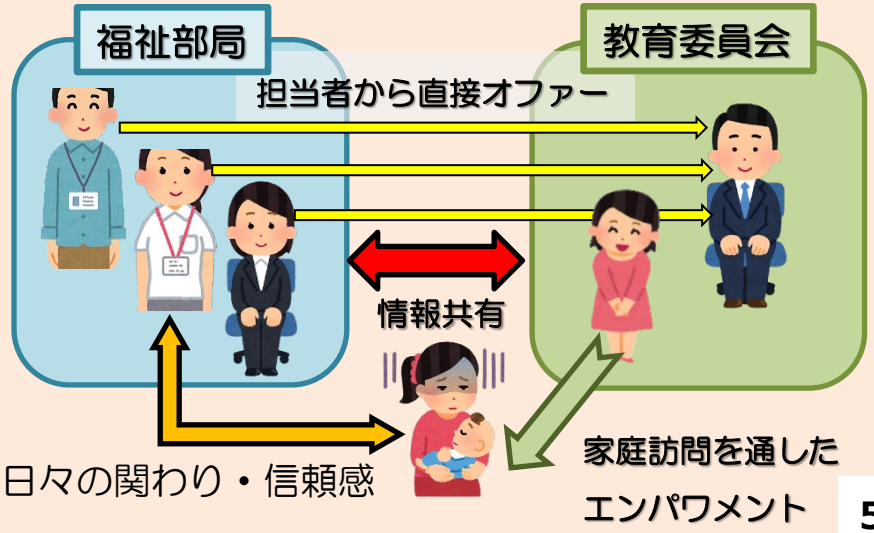
福祉部局には、就学前の保護者と関わりのある人がたくさんいる

心理職（発達相談）、保健師（乳幼児健診）
要対協職員（虐待や養育相談）、就学前施設の教職員

乳幼児期から培った保護者との信頼関係がある

福祉部局（健康こども部）との連携

★「目的」ではなく、「手段」として



福祉部局と連携したことによる変化・感想

■感じられる変化

①保護者へのつながりがスムーズに

【保護者につなぐ流れ】

- ①福祉部局の担当者から事前に説明
(意思確認と個人情報提供の承諾)
担当者「話相手になってくれるよ」
保護者「話をしてみたい」



②福祉部局の担当者が教育委員会の担当者にオファー

③福祉部局担当者、教育委員会担当者、サポーターが
3者で情報共有→その場で保護者へ電話をかけ、保護
者宅訪問の日程調整

◇電話がその場でつながらなかったのは、
全14件の中で、3件のみ

※学校からつなぐときは、動き出してから初訪問まで
数か月かかることも少なくなかった

②家庭教育支援の理解がすすむ

◇福祉部局の担当者も家庭教育支援の効果を実感

→Win-Winの関係、次のオファーにつながる

◇合同協議会による成果と課題の共有

年2回開催 教育・福祉の上席や専門家が参加
→部局間を超えた合意のもとで事業が進行

■福祉部局からのオファー

全14件

【内訳】

〔オファー元〕

- 発達相談員
(心理職) : 7件
□要対協職員 : 7件

〔幼児・児童の当時所属先〕

※関わったきょうだい等重複含む

- 就学前施設(公立) : 4人
□就学前施設(民間) : 2人
□小・中学校 : 13人

③日常の相談をはじめ、業務が円滑に

◇連携をきっかけに、より相談しやすい関係に

→日常業務だけでなく、相談(補助金や制度など)
もしやすくなる

◇新しく取り組む事業への協力体制

→共同して行っていくベース

感想

・就学前からサポーターが保護者につながってくれて
いたことがありがたい(教職員)

・小学校3年生になって、保護者のしんどさが見え始
めたが、引き続き関わっている。福祉部局の見立ての
するどさを改めて実感した(サポーター)

・他府県の児童相談所から移管されるケースについて
も、相談した上でサポーターの支援も並行して行うこ
とができた(福祉部局担当者)



福祉部局と連携したことによる変化・感想



■福祉部局からのオファー

【内訳】

【オファー元】 <input type="checkbox"/> 発達相談員 (心理職) : 7件 <input type="checkbox"/> 要対協職員 : 7件	【幼児・児童の当時所属先】 ※関わったきょうだい等重複含む <input type="checkbox"/> 就学前施設 (公立) : 4人 <input type="checkbox"/> 就学前施設 (民間) : 2人 <input type="checkbox"/> 小・中学校 : 13人
--	--

■福祉部局からのオファーを受けて関わったケース例

子の学年 (当時)	概要・きっかけ	進捗ならびに結果
年中	きょうだいげんかを止めない (頭を縫うようなケガだが、保護者は詳細わかっていない)	小学校とも連携を取りながら継続
年長	母が不安症 高ストレス「きっちりしなさい」 母も怒られて育った成育歴	2か月に1回の面談を継続中 (今年度になって母のしんどさが顕在化)
小1	きっかけは発達相談での来庁 →所見では問題なし 母の療育不足、心配性	母の変化 見守りに移行
中2	母が来庁し、話している中で泣いて相談 父と子の関係、子のアトピー (重度)	母の変化 父子関係も改善

福祉部局と連携した家庭教育支援の新たなステージ

テーマ 非認知能力「未来に向かう力」の啓発

子育て応援課

- ・ 乳幼児健診での啓発
↳ 保健師の協力
- ・ 子育て講座での啓発
↳ 心理職の協力



教育委員会

- ★おしゃべりサロン★
- ・ 就学前施設での開催



- ・ おやこ広場での開催



こども育成課

- ・ 教職員からの発信
- ・ 園だよりなどでの発信



- ・ 地域人材とのつながり



まとめ 福祉部局と家庭教育支援を連携してみても

①福祉部局と連携することによって見えた広がり

- 保護者をつなぐ選択肢（対象とする保護者も）が大きく広がった
- 保護者との「信頼」をつなぐ大切さを再確認させられた
- 「つなげる人がつなぐ」「できるだけ早くつなぐ」ことの大切さ

②就学前の段階を含む「家庭教育支援」の重要性

- 孤立の中で過ごす人の増加→少しでも早く保護者を支援する大切さ
- 家庭訪問型だけではない「家庭教育支援」のアプローチ方法
- 「家庭教育支援」は教育部・福祉部合同の一大プロジェクト



「家庭教育支援」は今の社会に必要

- 保護者を「ナナメの関係」で支援していく重要性
- 自治体にあったアプローチ方法で

ご清聴
ありがとうございました

